

## **地域音楽コーディネーター養成講座【オンライン 1 月】**

### **①「生涯学習と音楽」**

#### **これからの音楽の学び 地域音楽コーディネーターの展望**

**国立音楽大学・青山学院大学・立教大学兼任講師**

**河原啓子**

- 0. 学び（学習）とは
  - 1. 生涯にわたる学びとは
    - 1) 生涯学習 生涯教育 とは??
    - 2) 生涯学習に対する関心の深まり
    - 3) ライフステージと学び
  - 2. 現代的な社会課題と向き合う 音楽と共に人々が成長してゆける活動と学び
  - 3. 地域音楽コーディネーターの役割 現代的視点での求められる技能

## ①「生涯学習と音楽」

### これからの音楽の学び 地域音楽コーディネーターの展望

#### レジュメ

#### 0. 学び（学習）とは

事前質問に対するレスポンス

①まなびなろうこと。②経験によって新しい知識・技能・態度・行動傾向・認知様式などを習得すること、およびそのための活動。（『広辞苑』より）

生涯学習としての音楽とは

音楽のすばらしさを相互に発見し、音楽を楽しみ、理解を深めることとして本講座では位置づけます。

専門知識の獲得や楽器演奏などの技能の向上だけを指すものではありません。

つまり、

音楽に興味のある人々が自由に音楽を授受

音楽の専門教育を受けたか否かに左右されない

音楽に興味のない人が音楽の楽しさを知る

楽しみながら自発的に音楽のすばらしさを発見

年齢、性別、職業などの属性は不問

多くの人々と音楽を共有

…など。

#### 1. 生涯にわたる学びとは ライフステージの検討

##### 1) 生涯学習 生涯教育 とは？？

自己啓発、生活の充実、職業的知識、技能の向上などのために生涯を通じて学習すること、およびそのための活動。1990 年、生涯学習振興法制定。（『広辞苑』より）

さらに… 補足資料

## 2) 生涯学習に対する関心の深まり

国際的な意識 → 日本に波及  
リスキリングへの関心

さらに… 補足資料

## 3) ライフステージと学び



**ライフステージによって学習は変化 ライフステージによって音楽のニーズも変化**

さらに… 補足資料

## 2. 現代的な社会課題と向き合う 音楽と共に人々が成長してゆける活動と学び

社会的課題

少子高齢化 地球温暖化 AI 技術の発展 SDGs…  
生成 AI 時代 音楽活動は？

さらに… 補足資料



**生涯学習はさまざまな現代社会の課題とも向き合う  
社会問題克服の可能性**

## 3. 地域音楽コーディネーターの役割 現代的視点での求められる技能 求められる技能 … 実践的なさまざまなスキル



**地域音楽コーディネーターは、生涯学習への理解を深め、現代的な社会課題と向き合い、必要なスキルを駆使しながら、音楽を人々と共有**

さらに… 補足資料

## 生涯学習と音楽

### 「これからの音楽の学び 地域音楽コーディネーターの展望」

#### 補足資料

#### 1. 生涯にわたる学びとは

##### 1) 生涯学習 生涯教育 とは??

「教育は、児童期に開始される継続的な教育の初期の時期に限られる一度きりの経験なのではなく、生涯を通じて続けられるプロセスであるという考え方に由来する。人間の生涯はそれ自体、継続的な学習のプロセスであるが、それぞれの人は技術的・社会的変化に遅れないようにするために、また、自分自身の環境の変化（結婚、親になること、仕事に関連すること、高齢期など）に対応するために、さらには個人の十全な発達のために、継続的、目的、断続的な特別の学習機会を必要としている。生涯学習は個人の意図的な学習経験と偶発的な学習経験の双方を包含している。」（C・J・ティトゥムスほか編『成人教育用語集』1979 ユネスコより刊行）

#### 生涯学習の領域 主な領域

- 1) 健康増進 スポーツ 2) 芸術 芸能 趣味 教養 3) 家庭生活
- 4) 職業生活 資格取得 5) ボランティア

#### 生涯学習 自己実現と社会参加という二重の展望

##### 自分の関心や課題に向き合う

教養的・技術的な学習 趣味・文化・スポーツ 自己表現 仲間づくり

現実課題・生活課題に即した学習や情報の収集

ボランティア活動に参加するための学習 職業的関心に基づく自己啓発など

参加型社会のためのネットワーク

コミュニティづくり

… 幅広い

#### 生涯学習の必要性

- ・社会の一員としての情報の獲得
- ・さまざまな社会現象の理解
- ・職務その他でのスキルアップ
- ・生涯成長し続けるために
- ・変化し続ける社会を生き抜く力
- ・人生を豊かに …など

背景) グローバル化 文化成熟

## 2) 生涯学習に対する関心の深まり

1948 世界人権宣言 26 条教育に関する権利

1965 ユネスコ会議 成人教育部長ポール・ラングラン

人々は生涯にわたって教育を受ける仕組みが必要

1985 日本 臨時教育審議会「生涯学習体系への移行」

1985 ユネスコ総会 パリ会議「学習権宣言」満場一致で採択

「学習権とは、読み書きの権利であり、問い続け、深く考える権利であり、想像し、創造する権利であり、自分自身の世界を読み取り、歴史をつづる権利であり、あらゆる教育の手立てを得る権利であり、個人的・集団的力量を発達させる権利である。」

1997 ユネスコ ハンブルク宣言

「成人教育は権利であるというにとどまらず、二一世紀への鍵となっている。それは能動的な市民精神の帰結であるとともに、社会における完全な参加のための条件である。」

「生涯にわたる過程とみなされる青年・成人教育の目的は、人々およびコミュニティの自治と責任感を育て、経済・文化・そして社会全体に生じている変化に対処する能力を高め、コミュニティの共生・慣用を促進し、情報公開による創造的な市民参加を推進することである。」

2020 ダボス会議「リスクリング革命」発表

日本ユネスコ国内委員会『社会教育の新しい方向』

「生涯教育について」ポール・ラングラン、1967

「教育は、児童期・青年期で停止するものではない。それは人間が生きている限り続けられるべきものである。教育は、こういうやり方によって、個人ならびに社会の永続的な要求にこたえなければならないのである。」

『生涯教育入門』ポール・ラングラン、1970

「生きるということは、人間にとって、万人にとって、つねに挑戦の連続を意味するものだった。」

「今世紀の初頭以来、個人や社会の運命の諸条件を大幅に変え、人間の活動をさらに複雑化し、また、世界や人間行動に関する説明の伝統的な図式を疑問に付すような、一連の新しい挑戦が、いよいよ増大する鋭さをもって加わってきた。」

→ 「変化」は、歴史の常だが、近年それは加速化されている。

→特に、科学的知識および技術体系の進歩はとりわけ急速。

日本の成人教育（生涯学習）

戦前：民衆啓蒙や殖産興業、国民教化などの手段

戦後：復興と郷土復興に資することに期待 社会適応や、自己実現、現代的課題解決

1967 中央教育審議会の中間報告で生涯教育へ初言及

1971 社会教育審議会答申「急激な社会構造の変化に対処する社会教育のあり方について」  
「今後における学校教育の総合的な拡充整備のための基本的施策について」において「生涯教育」の文言による最初の政策

生涯学習という用語は、1980 年代以降の教育政策の推進で広く通用

1989 文部省生涯学習局

1990 「生涯学習の振興のための施策の推進体制等の整備に関する法律」（「生涯学習振興整備法」）制定

1990 年代に入って、生涯学習審議会がボランティアの意義を強調

→1998 年 NPO 法国会成立。

2021 リスキリングの必要性「第 2 回デジタル時代の人材制作に関する検討会」（経済産業省）

2022 リスキリング支援 1 兆円投入（岸田首相所信表明）

フランスの経済学者 ジャック・アタリの見解 リモートを活用の活発化

「バイオリン奏者や役者は、自宅に居ながらにして世界に向けてリサイタルを開き報酬を得られるようになる。」「劇団やオーケストラも同様。」

「人々は自分自身で音楽や映像を作ることを好むようになる。」

ジャック・アタリ『命の経済』244 ページ

### 3) ライフステージと学び

アメリカの成人教育学者 マルカム・ノールズのアンドラゴジーの提唱 2002

ペタゴジー アンドラゴジー

子どもの学びと 大人の学び

ライフステージのシンプルな分類

【学習期】→【職業期】→【余生期】

## 2. 現代的な社会課題と向き合う 音楽と共に人々が成長してゆける活動と学び 社会への波及力

- 1) 地域コミュニティの絆づくり
- 2) 社会的包摂機能の発揮
- 3) 教育面への寄与
- 4) 福祉面への寄与
- 5) まちづくりへの寄与
- 6) 観光・産業への寄与

### 地域課題

人権 医療・福祉 労働 経済 倫理 人口

地域 環境 安全 食糧 文化 観光

## 3. 地域音楽コーディネーターの役割 現代的視点での求められる技能

求められる技能 … 実践的なさまざまなスキル

・企画力（プランニング力）

ロジカルシンキング フレームワーク（5W1H、PDCA、マトリクス SWOT マトリクス  
水平思考 etc… 「漏れなく、ダブリなく」） マーケティング（ブルーオーシャン戦略）  
など

・コミュニケーション力 プレゼンテーション力

情報発信力 伝達力など（IT、SNS の有効利用 プレス対応）

・プロモーション力

PR アピールポイントの明確化 魅力発信（物語を構築 拡散させる戦略）

・資金調達力

ファンドレイジングは音楽への理解者を増やす活動（「目的」「活動」「呼びかけ」を明確に）

助成金獲得 的確なフォーム作成

公益性の確保

・調整力

マネジメント能力

…ほか

## 参考文献

### 音楽関連

久保田慶一『2018 年問題とこれからの音楽教育』ヤマハミュージックメディア、2017 年。  
久保田慶一『音大・美大卒養成のためのフリーランスの教科書』ヤマハミュージックメディア、2018 年。  
久保田慶一『新しい音楽鑑賞—知識から体験へ—』水曜社、2019 年。  
久保田慶一『新・音楽とキャリア』スタイルノート、2019 年。

### リスクリング関連

後藤宗明『リスクリング実践編』日本能率協会、2023 年。  
後藤宗明『中高年リスクリング』朝日新書、2024 年。  
清水久三子『リスクリング大全』東洋経済新社、2024 年。

### 思想関連

Erikson, Erik H. Erikson, Joan M. Kivnick, Helen, Vital Involvement in Old Age, W.W. Norton & Company, 1986. エリクソン, J.M. エリクソン, H.Q. キヴニック『老年期：生き生きしたかわりあい（新装版）』朝長正徳、朝長梨枝子訳、みすず書房、1997 年。  
Attali, Jacques, *L'économie de la vie*, Fayard, 2020. 林 昌宏、坪子理美訳『命の経済』プレジデント社。

### テクノロジー関連

Cope, David *Computer models of musical creativity*, Massachusetts Institute of Technology, 2005. (平田圭二監訳、今井慎太郎、大村英史、東条敏訳『人工知能が音楽を創る』音楽之友社、2019 年。  
三輪眞弘監修、岡田暁生編集『配信芸術論』アルテスパブリッシング、2023 年。  
河原啓子「AI 時代の生きる鍵 「考えた」ことに存在意義」(『朝日新聞』2023 年 8 月 9 日 11 面)

## 論文

『国立音楽大学研究紀要』

国立音楽大学リポジトリ（研究紀要）以下URLから閲覧可能

[https://kunion.repo.nii.ac.jp/index.php?action=pages\\_view\\_main&active\\_action=repository\\_view\\_main\\_item\\_snippet&index\\_id=223&pn=1&count=20&order=17&lang=japanese&page\\_id=13&block\\_id=21](https://kunion.repo.nii.ac.jp/index.php?action=pages_view_main&active_action=repository_view_main_item_snippet&index_id=223&pn=1&count=20&order=17&lang=japanese&page_id=13&block_id=21)

河原啓子「音楽・楽器ミュージアムにおけるマネジメントの考察：音の展示のジレンマは克服できるか」（54 巻 2019 年）

河原啓子「超高齢化社会におけるアートの存在意義」（55 巻 2020 年）

河原啓子「新型コロナ時代における生演奏をめぐる試論」（56 巻 2021 年）

河原啓子「音楽情報を伝達する方法の多様化について」（57 巻 2022 年）